

## 図書館だより

●開館時間●

9:00～18:00

●3月の予定●

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

■ 休館日

■ おはなし会

■ ひろたのみんなのおはなし会

■ ここにこほっぺのおはなし会

砥部町立図書館

☎(962)4400

## 新着紹介

『イオカステの揺籃』

『介護者D』

『一千億のif』

『首取物語』

『かんむり』

『ドラゴンズ・タン』

『我、鉄路を拓かん』

『奇跡を時くひと』

『はぐれんぼう』

遠田 潤子

河崎 秋子

斉藤 詠一

西條 奈加

彩瀬 まる

宇佐美まこと

梶 よう子

五十嵐貴久

青山 七恵



『たとえば、葡萄』  
大島 真寿美  
小学館 刊

まったく先の見えない状態で会社を辞めた28歳の美月は、母の親友・市子(56歳)の家に転がり込む。個性の強い大人に囲まれ、一緒に過ごすうち、美月は徐々に上を向き…。『今』と『これから』の物語。



『60歳からの疲れない家事』  
本間 朝子  
青春出版社 刊

60歳は人生における季節の変わり目、そろそろ、家事の棚卸しをしませんか。知的家事プロデューサーが、未来の自分にちようどいい、無理なく、いい家事を提案。手間を省いた「疲れない」アイデア&テクニックを伝える。



『水底のスピカ』  
乾ルカ  
中央公論新社 刊

北海道の高校に東京から転校生・美令がやってきた。完璧な彼女は些細なことからクラスで浮いた存在になる。クラスで孤高を演じる和奈。クラスカースト上位の更紗。それぞれ秘密を抱える3人が向かう先に待つものは…。

## みんなの人權

☎(962)5952  
☎(962)5952  
☎(962)5952

マスク生活の中でも笑顔と思いがとどきますように…。(麻生保育所)

新型コロナウイルス感染症が流行

し始めて3年が経ち、子どもたちも周囲の大人たちも、マスク着用が生活の一部になっていきます。顔の半分以上がマスクで覆われているため、感情を読み取る難しさから、相手の気持ちを理解できにくかったり、人とのコミュニケーションがとりづらくなったりしています。

子どもたちにも、相手の思いや感情が理解できず一方的に話す姿が多く見られるようになりました。そこで、思いを言葉で伝え合うことや相手の目を見て話すことの大切さを、これまで繰り返し伝えてきました。人と関わることの楽しさを味わうことは、就学前において「人權意識の芽生え」を培うために大切だからです。これにより、少しずつ相手の思いに気づき、受け入れようとする姿が見られてきました。嬉しい時には一緒に笑い、抱きしめたりハイタッチをしたりします。困った時には一緒に考えを出し合います。いけないことをした時には声のトーンを下げ、知らせます。



保育所では0歳から就学前までの子どもが生活し、なかには言葉をうまく発せない子どももいます。言葉による伝え合いを中心にボディーランゲージや声のトーンを変化させることで、豊かな感性や表現する力を育てることを大切にしています。

大好きな保育所で大好きな友達や保育士と一緒に「楽しい」場面をたくさん作っていくことで、マスク生活でも笑顔あふれる子どもたちに育つよう、日々保育をしています。そして一日でも早くマスクのない生活に戻れることを願っています。健やかな「人權意識の芽生え」のためにも。